

令和4年3月14日

保護者のみなさまへ

泉佐野市立第二小学校  
校長 勝間 弘記

### 学校教育アンケート（学校教育診断）のお礼と結果の集約について

早春の候、保護者のみなさまには、平素より本校の教育活動推進に何かとご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、今年度も2年生と5年生の保護者対象に「学校教育アンケート」を実施しましたところ、206人のみなさまからご回答をいただきました。これは回収率94%にあたります。多くの方々にご協力をいただきましたことに対し、改めて心よりお礼申し上げます。アンケートにつきましては、児童の回答分も含めて精読いたしました（児童分の主な分析につきましては、右項に掲載させていただきました。）

本年度も、新型コロナ感染拡大防止に関わりいろいろな場面で学校生活・学校行事にも制約がありましたが、たくさんの児童たちが学校へ行くのが楽しく、学習や少ない学校行事や学年・学級の取り組みに積極的に参加している様子うかがえました。大変ありがたく思っています。しかし、多数の肯定的な回答とは別に、否定的な回答もありました。今後も全ての児童、全保護者のみなさまが学習や行事に積極的に参加したい！と思えるような魅力ある学校づくりをめざしていきます。

本校では自分の意見を持ち、話し合ったり、発表したりする機会を多く取り入れた授業づくりを推進しています。このことと関連した問いの「授業や学級会で発表したりする機会」が多いと感じている児童が5年生では85%でした。これは昨年度より高い割合となっており、児童が発表したくなる・友だちと話し合うことを設定する授業づくりに取り組んできたことの成果ではないかと思っています。

保護者様におかれましては、「命を大切に作る心や社会のルールを守る態度を育てている」「すべての教育活動において子どもに人権尊重の意識を育てようとしている」ことなどには、昨年度に引き続き高い評価をいただいています。また、「台風などの場合の対応について、子どもや保護者に知らされている」「子どもの登下校時における安全確保」など、学校・家庭・地域との連携に努めていることに対しても、一定の評価をいただきました。

反面、「進んで読書をする」とりくみは、学校の教育活動が子どもの家庭生活にまで及んでいない状況があります。読書は全ての学習に効果があり、その土台としてとても有効な学習といえます。今後も、子どもたちが読書する楽しさを味わえるような指導を続け、家庭でも読書したくなる指導に取り組んでいきたいと思えます。

たくさんの貴重なご意見をありがとうございました。今後の本校の教育活動に活かし、お子様の将来を見据えて、学校は保護者・地域の皆様のご協力をいただきながら、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。今後ともよろしくお願いします。

## 学校教育アンケート学年別集約（令和3年度）

### 2年生

- ① 「授業がわからないときは、先生に聞きやすい」という児童が73.4%であった。2年生はこれからの学習に必要な基礎学力を養う非常に重要な時期である。授業がわからないときに、すぐに質問できるようにし、しっかりと声かけするとともに質問する時間や場を設定していくことで、児童が「わかる」と感じられるように授業改善、工夫にとりこんでいきたい。
- ② 「授業や学級会で、自分の意見を発表する機会がある」と感じている児童は75.3%に留まった。発表する場はあっても、発表しづらい、発表したくないといった理由で発表していない児童が多いことが考えられる。安心して自分の意見が言える学級の雰囲気づくりに努め、児童が主体的に授業に参加できるように、発問の工夫やグループ学習の機会をさらに増やしていきたい。
- ③ 「児童朝礼の先生の話や委員会の話はためになる」と感じている児童は、92.5%と高い割合となった。今年度も児童朝礼は放送朝礼のため、視覚的に情報を伝えているためしっかりと聞いているように感じる。今後も発表者が工夫をして発言していきたい。
- ④ 「読書は楽しい」と感じている児童は90.4%と高い割合になった。図書時間をしっかりと確保し学年の本棚を設けたり国語の学習で並行読書に取り組んだりしたことが要因と考えられる。また、「読書通帳」への関心の高さもうかがえる。今後も児童が様々な本と出会い、豊かな読書体験ができるよう取り組みを進めていきたい。
- ⑤ 「学校では、地震・火事などが起こった場合どうしたらいいか教えてくれる。」では、93.6%と高い割合になった。年間計画を立て様々な災害を想定して防災教育に取り組んでいる結果である。今後も訓練を重ねて安全に避難できる力を身につけさせたい。

### 5年生

- ① 「学校へ行くのが楽しい」という設問に、肯定的に回答した児童が90パーセント以上であった。1年生からの集団づくりの取り組みによって、より良い人間関係が形成されてきている。
- ② 「授業はわかりやすい。」という設問に、肯定的に回答した児童が95パーセント以上であった。子どもたちに授業をしている教員の丁寧な授業づくりの成果が表れていると考えられる。
- ③ 「先生は、わたしたちの話を聞いてくれる。」という設問に、肯定的に回答した児童が95パーセント以上であった。各教員と子どもたちが日常的にコミュニケーションがとれている表れであると考えられる。
- ④ 「児童朝礼の先生の話や委員会の発表はためになる。」と感じている児童は90パーセント以上だった。今年度は、児童朝礼をテレビ放送に変えた。視覚的に情報を伝えることや、各委員会が伝えたいことを短くわかりやすく工夫して意識した成果ではないかと思っている。
- ⑤ 「読書は楽しい」で楽しいと選んだ児童が70パーセントほどにとどまっており、学校で読書の魅力を感じたり、本に親しむ機会をあまり与えられていないことが原因かと考えられる。今後、本に触れる機会を増やしていきたい。